



第1回 福井空港ビル再整備構想検討委員会

令和 6 年7月8日
福井県

目次

1.委員会について

- ・目的
- ・スケジュール

2.福井空港の概要

- ・現況平面図
- ・空港諸元
- ・沿革（概要）

3.福井空港の現状

- ・地理条件
- ・利用状況
- ・能登半島地震での活用
- ・現在の施設

4.福井空港における課題

- ・分野別に見る課題

5.福井県の取組について

- ・福井空港の将来像
- ・県の取組の状況

6.福井空港ビルの再整備に向けて

- ・将来像におけるビル再生備と関連する取組方針
- ・検討対象

7.添付資料

1 委員会について

【目 的】

令和5年3月に策定した「福井空港の将来像と今後の取り組み方針について」（以下「将来像」という。）において、58年が経過する現空港ビルの老朽化が著しく建替等が必要であるとしており、本委員会において主に以下の観点から、空港ビルの再整備に向けた具体的な構想（案）をまとめていくことを目的とする。

観光やビジネスを
中心とした空港利活用の促進

防災拠点としての機能強化を
含めた空港ビルの再整備

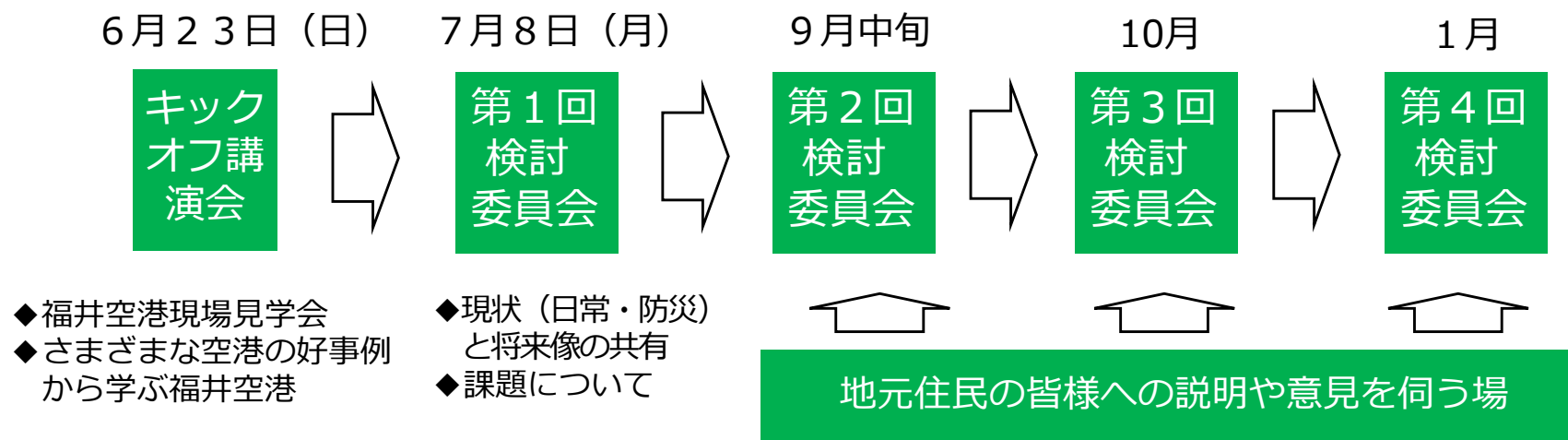
1 委員会について

【スケジュール】

1 将来像における空港ビル再整備スケジュール

	短期【挑戦期】		中期【実践期】		長期【飛躍期】
	R5 2023	R6 2023	R7 2025	～ R11 2029	R12 2029 ～
○空港ビルの再整備 ○防災拠点としての機能強化	空港ビル再整備 構想とりまとめ 本委員会		空港ビル再整備 調査基本設計 → 詳細設計 → 新ビル建設工事 → 現ビル取壊工事等		空港機能の拡充 〔新ビル再配置により 駐機スポット数等の確保〕

2 委員会スケジュール（令和6年度）

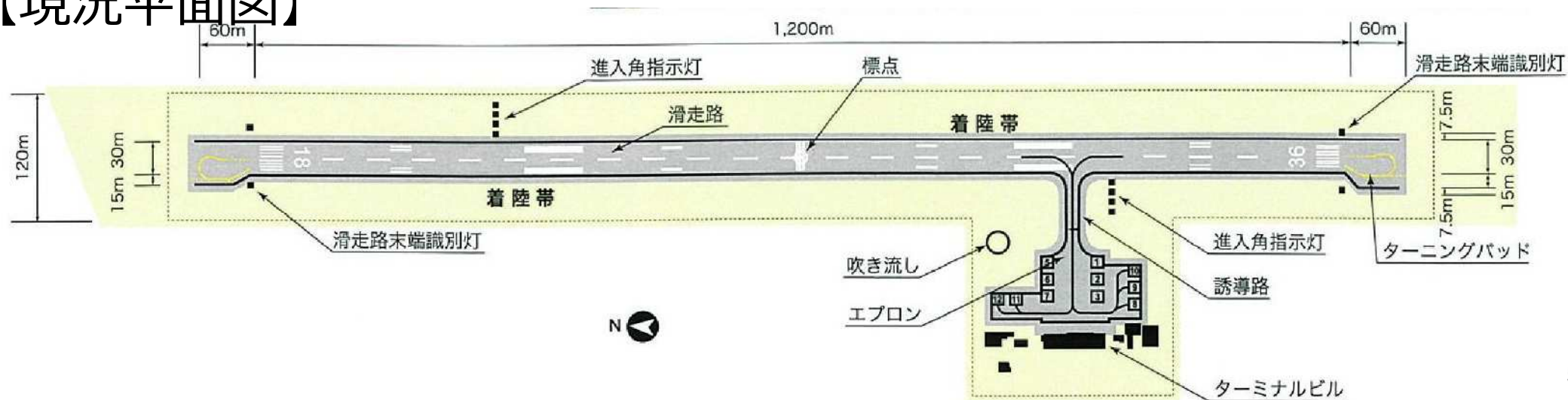


2

福井空港の概要



【現況平面図】



2

福井空港の概要

【空 港 諸 元】

位 置 : 福井県坂井市春江町江留中

運 用 時 間 : 午前9時から午後5時まで（午後5時までに日没の場合は日没まで）

滑 走 路 : 1,200m×30m （着陸帯 1,320m×120m）

エ プ ロ ン : 8,634m² スポット11バース（1バースあたり14m×12m）

空 港 ビ ル : 1,521m²（福井空港(株)、福井県）（S40年度竣工 築58年）

給 油 施 設 : レフューラー方式（航空ガソリン(アブガス)、ジェット燃料※）

格 納 庫 : 防災ヘリ、ドクターヘリ、県警ヘリ、福井空港(株)、民間事業者

気象観測施設 : 風向・風速、気圧、気温等の各観測施設

駐 車 場 : 146台

※アブガス：セスナなどの小型機で使用、ジェット燃料：小型ジェット機ヘリコプター等

【沿革（概要）】

1961年	6月	福井県総合開発計画策定
1962年	6月	現位置に空港建設を決定
1964年	5月	空港整備工事起工
1966年	3月	空港整備工事竣工
1966年	6月	福井空港開港（定期便就航）6月30日
1976年	4月	定期便休航
1991年	2月	福井県警察航空隊ヘリコプター配備
1997年	3月	福井県防災ヘリコプター配備
2001年	9月	拡張整備計画の当分の間の「凍結」を決定
2003年	3月	福井空港利活用推進計画策定
2003年	6月	拡張整備計画の中止を決定
2006年	10月	福井空港の管制業務を中部国際空港からの遠隔管制（RAG）に移行
2011年	1月	NDB廃止により計器進入方式をRNAV方式に変更
2021年	5月	ドクターヘリ配備
	10月	管制業務が大阪対空センターからの遠隔管制（RAG）に変更
2023年	3月	「福井空港の将来像と今後の取組方針」策定

3 福井空港の現状

【地理条件】

福井空港は福井県の北部、福井平野のほぼ中央にあって、北陸新幹線の福井駅から北へ約10 kmに位置しており、車で約30分でアクセスできる。

最寄りのハピライン春江駅からは車で約5分（徒歩約25分）、北陸自動車道丸岡ICや、国道8号からも比較的近い。また坂井市を東西に横断する福井港丸岡インター連絡道路の整備が進んでおり、将来的にも更なるアクセスの向上が見込まれる。



3 福井空港の現状

【利用状況】

- ・ 定期便は就航していない
1966年7月－1976年4月：羽田便が2往復就航
- ・ 自家用および事業用の小型機、ヘリの離発着
(離発着回数はp10記載)
- ・ 学生の課外活動としてグライダー利用
現在、東海・関西学生航空連盟が使用
(毎年2月～11月の期間)
- ・ 操縦士ライセンス取得の訓練
着陸回数：1,383回
- ・ JAXA等による研究開発の場
令和2、3年度に滑走路雪氷検知技術の実証実験
令和4～6年度に被雷危険性予測技術の観測実験
- ・ 福井空港スカイフェス等の航空レジャーイベント
隔年9月下旬（空の旬間）に合わせて開催。
令和5年度の来場者数 約2,000人
- ・ 防災ヘリ、警察ヘリ、ドクターヘリの活動拠点施設
令和5年度着陸回数：
防災ヘリ270回、警察ヘリ135回、ドクターヘリ323回
- ・ 災害時の救援基地
能登半島地震では救援活動（p12記載）



3 福井空港の現状

【利用状況】

空港の着陸回数（過去5年度分）

年度	固定翼 小型機	回転翼 (ヘリコプター)	グライダー	合計
2019	985	728	1,778	3,491
2020	738	687	591	2,016
2021	1,283	969	669	2,921
2022	1,300	1,044	1,144	3,488
2023	1,676	1,007	1,940	4,623

R4年度、全国108の空港等を対象とした着陸回数（国公表資料）において福井空港は3,488回で48番目となっている。

3 福井空港の現状

【利用状況】

福井空港を利用する主な機体

小型機

駐機機材：セスナ172S（全長8.28m、幅11m）
ソカタTB21（全長7.71m、幅9.76m）

グライダー

日本学生航空連盟機材

ヘリ

福井県防災航空隊：川崎式BK117C-2型（全長13.03m、幅11m）
福井県警察航空隊：ユーロコプター式EC135T2+型（全長12.16m、幅10.2m）
福井県ドクターヘリ：川崎式BK117C-2型（全長13.03m、幅11m）



※現在の駐機スポットの寸法は14m×12m

これを超える機材やヘリを駐機する場合は、駐機スポットの調整が必要。

3 福井空港の現状

【能登半島地震での活用】

物資等の搬送や警察、消防、自衛隊の活動拠点として活用

1. 物資等の搬送 自衛隊ヘリ（4回）

- （1）病院食の搬送
- （2）入院患者の搬送

2. 県外の県警ヘリ・防災ヘリによる利用

（令和6年1月1日～31日の着陸回数 68回 ※R5年同時期20回）

（1）警察

警視庁、大阪府警、新潟県警、兵庫県警、広島県警、高知県警、京都府警、福井県警

（2）防災

和歌山県防災ヘリ、大阪市防災ヘリ、兵庫神戸防災ヘリ、京都市防災ヘリ、
名古屋市防災ヘリ

※その他にも民間による支援物資搬送ヘリ、報道関係などの利用あり

3 福井空港の現状

【能登半島地震での活用】



物資（病院食）の搬送



入院患者の搬送



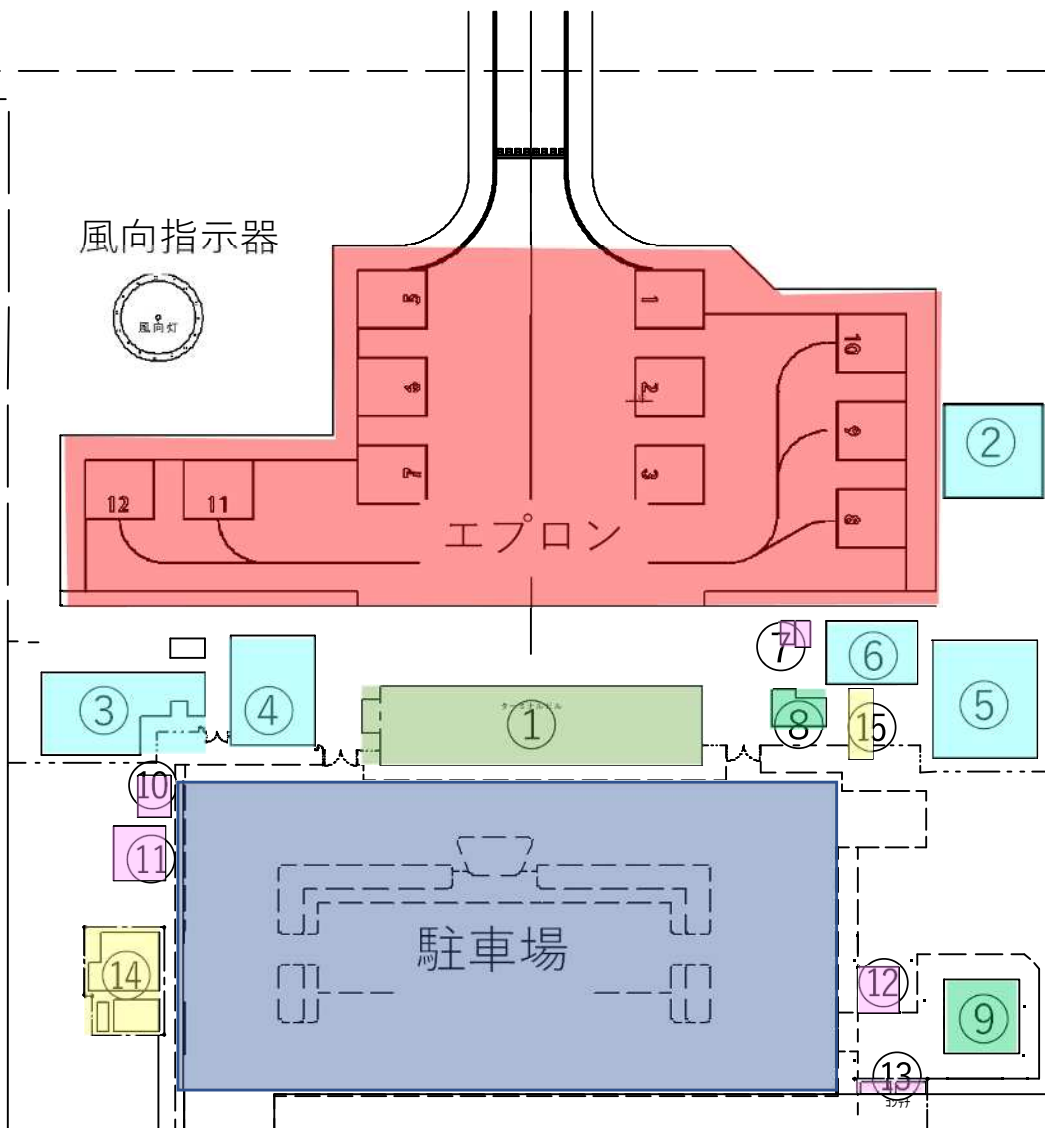
防災ヘリ等駐機状況



空港ロビーでの患者受入調整

3 福井空港の現状

【現在の施設】



	施設名称	所有者	使用
①	空港ビル	福井空港㈱	
②	格納庫	福井空港㈱	民間貸与
③	庁舎・格納庫	福井県警察	県警ヘリ
④	格納庫	福井県（地域医療課）	ドクターヘリ
⑤	格納庫	福井県（危機対策・防災課）	防災ヘリ
⑥	格納庫	民間	民間
⑦	車庫	民間	給油車両
⑧	電気局舎	福井県 （空港事務所）	空港管理
⑨	給油施設	福井県 （空港事務所）	
⑩	車庫（倉庫）	福井県 （空港事務所）	
⑪	倉庫	福井県 （空港事務所）	
⑫	車庫	福井空港㈱	給油関係
⑬	倉庫	福井県 （地域医療課）	防災医療
⑭	宿舎・研修棟	日本学生航空連盟	日本学生
⑮	トイレ	福井空港㈱	

4 福井空港における課題

【分野別に見る課題】

分野	課題
施設面	・ 空港ビルの老朽化（築58年） ・ エプロンやスポット数の不足（特に災害時） ・ 市民に親しまれていない（利用する施設が少ない）
運用面	・ 運用時間（午前9時～午後5時） ・ CIQ体制が整っていない（国外からの受入れ不可）
利用面	・ 商業利用が少ない （福井空港の利便性について航空事業者への認知度不足） ・ 県民に空港の役割が知られていない（県民への認知度不足）

5 福井県の取組みについて

【福井空港の将来像】

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

- 多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す
- 防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく

（1）短 期（目途）R5年度～R6年度＝挑戦

- 様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
- 利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

（2）中 期（目途）R7年度から5年程度＝実践

- 事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
- 新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

（3）長 期＝飛躍

- 駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

5 福井県の取組みについて

【県の取組み状況】

- ▷ 県民参加型のイベント開催
☞ 「スカイフェス」「くうこうであそぼう」の実施
- ▷ 福井空港のPR動画等の作成
航空機運航促進事業補助金による
観光・ビジネス利用支援
- ▷ 小型機などの体験搭乗
未婚ペア向け遊覧飛行などの実施
- ▷ 場外離着陸場確保に向けた申請図面の作成
モニターツアーの実施（越前市、永平寺町）

スカイフェス2023



PR動画の作成



場外離着陸場
(イメージ)



体験搭乗



(福井空港利活用推進事業予算額：R5 19,933千円， R6 41,506千円) 17

6

福井空港ビルの再整備に向けて

【将来像におけるビル再整備と関連する取組方針】

- ・ 観光・ビジネス目的での利用増加
- ・ 地元住民が空港に足を運ぶ機会の増加
- ・ 現在の福井空港で離着陸可能な航空機・ヘリによる定期的な利用
- ・ 駐機スポット数を拡充し大規模災害時における防災ヘリや
ドクターヘリの参集拠点としての機能強化

※「福井空港の将来像と今度の取り組み方針について」より抜粋

6

福井空港ビルの再整備に向けて

【分野別に見る課題 再掲】

空港ビル再整備の中で対応を検討

分野	課題
施設面	・ 空港ビルの老朽化（築58年） ・ エプロンやスポット数の不足（特に災害時） ・ 市民に親しまれていない（利用する施設が少ない）
運用面	・ 運用時間（午前9時～午後5時） ・ CIQ体制が整っていない（国外からの受入れ不可）
利用面	・ 商業利用が少ない （福井空港の利便性について航空事業者への認知度不足） ・ 県民に空港の役割が知られていない（県民への認知度不足）

6

福井空港ビルの再整備に向けて

【検討対象】

○エリア

- ・既存敷地内（※滑走路の延伸や拡幅は対象外）

○施設

- ・空港ビル、エプロン、駐車場等

○検討内容

- ・敷地内の施設レイアウト
（エプロンと駐機スポット、駐車場、ビル建替え位置）
- ・空港ビルの機能（必要性や規模）
（例：会議室、事業者用貸別、災害・救護スペース等）
- ・空港ビル内のレイアウト

7

添付資料

1 福井空港の現状

(1) 利用状況について

- 昭和51年以来、定期便は就航していないが、学生の課外活動としてグライダーによる利用が活発であるほか、操縦士ライセンス取得のための訓練施設、スカイフェス等の航空レジャーイベントの会場等として活用されている
- 県警察航空隊、県防災航空隊のヘリコプター、県立病院を基地病院としたドクターヘリが配備され、県民の安全、安心な暮らしを守る活動拠点として、また広域的な災害対応の拠点として活用されている

(2) 施設について

- 滑走路：長さ1,200m×幅30m、駐機スポット数：11か所、運用時間：9時から17時まで（17時までに日没となる場合は、日没まで）、供給燃料：航空機ガソリン、ジェット燃料
- 空港ビルは、建設から57年が経過し、老朽化が著しいものとなっており、建替等が必要と考えられる
ビル内は、管理事務所のほか、事業者貸部屋、研究等による貸しスペースとして利用されている

2 福井空港の将来像

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

○多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す

○防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく（詳細については次ページに記載）

(1) 短期（目途）R5年度～R6年度＝挑戦

- 様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
- 利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

(2) 中期（目途）R7年度から5年程度＝実践

- 事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
- 新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

(3) 長期＝飛躍

- 駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

3 今後の取組方針

(1) 空港全体の機能強化について

<短期> (目的) R5年度～R6年度

- 民間事業者によるヘリの運航について、市町と連携して県内主要観光地付近等（スキージャンプ勝山駐車場等）に場外離着陸場を確保のうえ、広く試験飛行を実施して活用の可能性を検証し、観光目的での新たな利用を提示する
- プライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、離着陸の時間調整やエプロン内での乗り継ぎに柔軟に対応できるという特徴が一般に認知されていないため、営業ツールを作成し、県外事務所等と連携するなど利用を呼びかけるとともに、旅行商品のモニターツアーの実施などにより、観光・ビジネス目的での利用増加を図る
- ビジネス目的で小型ジェット機を利用する企業への補助や、未婚のカップルを対象とした小型ジェット機による遊覧飛行の実施
- 国外からのプライベート機の受入に向けて、C I Q対応について運用を検討し、さらなる利用促進を目指す
- 既存の空港ビルについて、離着陸手続きの動線変更やロビーの展示内容のリニューアルなどにより有効活用し、利用者等の満足度向上を図る
- 9月の「空の日」にあわせたスカイフェスの開催や、体験搭乗会の実施など、地元住民が空港に足を運ぶ機会の増加を目指す
- 燃料給油や機体整備機能の維持を検討するほか、グライダーや小型機による継続的な利活用を図る（※中期以降も共通）
- 空港運用について、現在の空港施設（照明設備なし）での運用時間の延長を地元と調整のうえ検討する

<中期> (目的) R7年度から5年程度

- 民間事業者によるヘリの運航について、プライベート機や小型ジェット機のチャーター利用との接続も視野に、ヘリの運航事業者による県内主要観光地等を結んだ商業運航の開始を目指す
- 国内のプライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、県外事務所等と連携して営業活動を継続し、更なる利用増加を図る
- 国外からのプライベート機について、海外事務所等と連携して福井空港の利用をPRし、福井空港での受入を目指す

<長期>

- 空港運用について、照明設備を新設したうえでの運用時間の延長の検討、アクセスの向上を図り、さらなる活性化を目指す
- 空港ビルの再整備とあわせ、駐機スポット数や格納庫用地などの空港施設を拡充し、地元理解と事業採算性を前提に、現在の福井空港で離着陸可能な航空機・ヘリによる定期的な利用を目指す
- 駐機スポット数を拡充し、大規模災害時における防災ヘリやドクターヘリの参集拠点としての機能強化を図る

<さらなる展望>

- 貨物輸送については、安定的な需要の確保、輸送コストの縮減といった課題があるため、今後需要を探り、定期的な輸送の可能性を検討していく
- 機体整備工場、航空運送事業者の活動拠点、空港に関係した体験施設などの整備については、今後需要を探り、可能性を検討していく
- 「空飛ぶクルマ」など次世代モビリティについては、国内での実証実験の進捗を見て、今後、受入れに必要な対応を検討していく

(2) 空港ビルの再整備について

○令和5年度から6年度にかけて、利活用の状況を踏まえ、入居者や地元等関係者と協議を行い、現空港ビルの管理者と調整のうえ、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめる

○令和7年度から5年程度をかけて、新空港ビルの構想を踏まえ、空港ビルを再整備する

目的	管理	旅客利用等の増加	地域交流等	利用者の活動スペースの確保		旅客利用の増加		利用者の活動スペースの確保	その他利便性向上
機能	管理事務所	ロビー	展望スペース	事業者用貸部屋	会議室 (共有スペース)	CIQスペース (海外客対応)	受付スペース (カウンター等)	待機、休憩所 (乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用)	飲食店、イートインスペースの整備等
現状	○	○	○	○	○	—	—	—	—
将来	○	現状有する機能について継続の必要性や規模を検討				追加の必要性や規模を検討			